

第1章
守るために攻める。
まちを支える除雪の物語

担い手不足という大きな壁と未来への投資

現在飯南町では、三嶋さんのように町道の除雪を個人で受け持つ除雪作業員10人と町内建設業者9社に在籍する除雪作業員31人が活躍しています。平均年齢は62歳。特に個人で除雪を受け持つ除雪作業員の人数が減っています。

その背景には、早朝からの危険な作業や不安定な収入（雪が降らないと収入はない）などが関係しているのかもしれない。

除雪現場が抱える課題を（株）藤原建設社長の藤原昌一さん（飯南町建設業協会会長、除雪歴40年以上に達しました。「わしら受託業者がこれからできることは、除雪の効率化と除雪作業員の育成だね」。藤原建設は、町道のほかにも、県道の除雪を受託しており、13人の除雪作業員が在籍しています。多くの除雪作業

員が在籍していることで、除雪が間に合っていない路線に追加で除雪作業員を送り込むなどの柔軟な対応ができています。

近年では、除雪車に発信機をつけることで、全車両の動きをパソコンの画面上で確認できるようになり、さらに除雪の効率が上がっているようです。

「システムも大事だが、除雪作業は信頼関係が何よりも大切。社内での作業員同士のやりとりはもちろん、業者間、そして役場と連絡を密に取り合いながら連携を強めていきたい」と話していました。

また、藤原建設では、作業員の育成に力を入れており、平成30年は2人、令和元年は1人が除雪作業員の資格を取得しています。

資格取得の障害になるのが約40万円という高額な経費。個人での取得は難しいのが現実です。そこで飯南町の助成金を活用し、経費の約半分は会社で負担しながら作業員の育成を進めています。

「昔は資格を取らなくてもすぐ辞められたら会社の損害になるので、タイミングを考えながら資格を取得してもらったが、今はそんなこと言ってもらえん。そも

そも人の数が少なくなっただけね。でも、資格をとっただけじゃ作業員は育たん。若手にもどんな現場に出てもらって、現場感覚を養ってほしい。除雪は自然相手。そのときどきの判断が大事になる。実践あるのみ。でも安全が第一。とにかくゆとり、それが一番早いんだ」

一人の戦いじゃない

「ありがとう。と喜んでくれる人の声を聞いたときは嬉しいし、次も頑張ろうと思う。そして家族、特にお母さんの支えがあったから今までやってこれた。雪が降るとぐっすり寝ることがないし、土日も関係ない。これはわしだけじゃなくて作業員みんなだ」と藤原さんは言います。

藤原さんは、午前4時に起きて雪の状況を確認し、各作業員に出動命令をかけ、その後各車両の動きを把握しながら指示を出します。

藤原さんが動き出すのに合わせて、奥さんが弁当を作ったり、コーヒーを入れてくれたりして、「頑張つて来んさい」と声をかけてくれるそうです。

こういった家族の支えが除雪作業員、そして飯南町の除雪を支えているのかもしれない。

一人一人ができることを

●家の出入口などは各戸で 除雪車通過後の家の出入口などの除雪は、各戸での除雪にご協力をお願いします。

●支障木などは早めに撤去 除雪作業に支障がある立竹木などは、伐採するなどあらかじめ取り除いてください。支障がある場合、やむを得ず取り除くことがあります。

●除雪車の作業中は 近くで作業しない 除雪作業中は周囲に気を付けて作業しますが、車両の死角などで危険です。車両が離れてから除雪してください。

側溝のふたは必ず閉める

側溝のふたを外して投雪したときは、作業後に必ずふたを元に戻してください。元に戻さないで、転落や衝突などの重大事故が発生する可能性があります。

●動かせないものには目印を ゴミ収集ボックスなどの動かせない構造物は、積雪が多くなると位置が分かるように、赤い布（目印）をつけた棒を立ててください。

路上駐車などをしない

スムーズな除雪と安全確保のため、長時間の路上駐車や、資材などを放置しないでください。また、除雪路線沿いの電気柵やワイヤーメッシュは撤去してください。

■問合せ

国道54号

国土交通省頓原維持出張所
電話76・0004

県道・国道184号

雲南県土整備事務所
電話42・9601

町道

建設課 電話76・3942
頓原基幹支所 電話72・0311
来島支所 電話76・2393
志々支所 電話73・0001



毎年11月下旬に開催される「除雪会議」では、除雪作業員と受託業者、役場が除雪計画に基づき情報共有



若手作業員に路線の特徴を指導中



(株) 藤原建設社長の藤原昌一さん